

日本初！話題の中央大学女装講師④が体を張

って教える「男の体で女の心」の社会学



「それでは講義をはじめま〜す」——中央大学の教壇に立つ三橋順子先生の一言で、学生は静まり、テキストに目を向ける。ミニスカートからはスラリとのびた脚、メイクもバッチリ決め、マニキュアをつけた指先もなまめかしい。でも順子先生は、正真正銘の男なのだ。女装を始めて10年。異色の講師はこうして誕生した。

# 順子先生は性の越境者

順子先生の講義は、女子学生が多いのも特徴。

「私の講義を聴いてくれた学生が偏見なく人と接するようになってほしい。でも妻子にこのことは内緒です…」

多摩丘陵に開かれた中央大学（東京・八王子市）のキャンパス。木立の葉が午後の日差しを受けて、秋の色を濃くしている。この大学の文学部社会学科の講師、三橋順子さん（45才）の授業に、いま学生たちの人気が集中しているという。さっそくその教室をのぞいてみた。黄色と黒の幾何学模様のカーディガンに、黒のミニスカートといういでたちで教壇に立つ三橋先生は、どこから見てもセクシーな女性だ。だが彼女の本名は、三橋順子ではない。本名は別にあつて、戸籍上の性別は、れっきとした男である。いや男としては妻子を持ち、夫と父親の役割は、ちゃんと果たしている。その三橋さんが、中大講師に任命されたのは今年4月。大学が、三橋順子として採用したのだ。そして9月21日から週に1回、講義を受けもっている。「いままでも、週に3日は、男性として私立大やカルチャーセンターで日本史の講師をしています。週末は新宿の女装系スナックでホステスをしていることもあるんです。それがあきつかけで、矢島先生と出会い、こうやって女装して教壇に立つことになったんです」

2年前の'98年の春、ゲイとレズビアン社会学を研究していた矢島正見教授（中央大学）が、トランスジェンダーの聞き取り調査を行うことになり、三橋さ

# 日本初！話題の中央大学女装講師が体を張って教える「男の体で女の心」の社会学

人にコンタクトを取ってきたのだ。『トランスジェンダー』とは、ちょっと耳慣れない用語だが、端的にいうと、「性の越境者。つまり、生まれつきの性とは逆の性で、社会的に生きようとする人」をそう呼ぶ。たとえば、いわゆるニューハーフもそのひとつの類型だ。

「私もそのトランスジェンダーのひとりとして、男性とは、女性とは何か!? そして女装して教壇に立つことによって自らの性のありようについて考えてみる、いい機会だと思ったんです」

現代社会研究トランスジェンダーの立場からの性社会学という講義は、これまで女装という世界で生きてきた三橋さんの経験をベースに、マイノリティ（少数派）の視点を通し、マジョリティ（多数派）にむけて、あくまでアカデミックに展開される。この日はスライドを使っ

た講義。集まった100人の学生のうち8割ほどが女子学生。衣服や体の向きによる女性的な身体イメージの強調が、第三者の視覚的な性別判断にどう影響するかを丁寧に解説していく。

学生たちの評判は上々。「最初、ちょっとハデめの女性講師だなと思ってたから、えっ、ウソっ!? ってビックリ。とってもしらないうちに、女の先生より、妙な親近感があるんです」（文学部・4年の女子）

友だちから「面白い授業がある」

時とともに理想像も変わる。右は8年前の派手志向だったころ。左は1年前で、ずいぶん落ち着いた。

る」と誘われ、他学部から聴講に駆けつけてくる学生もいる。「こんな先生、アリいって驚いた。ちゃったけど、毎週、もう楽しみ。世の中、いろんなパージョがあるけど、こんなことしちゃううちの大学って、なかなかやるじゃんって感じですよ」（経済学部・3年の男子）

## 「一度だけが苦悩のはじまり」

幼いころから三橋さんは、自分の性に対していうにいわれぬ違和感を抱いていた。

「高校生ぐらいになると、同級生の男の子たちはみんな、好きになった女の子とやりたい! といっているのに、私はそうは思わなかった。好みの女の子を見ると、自分がああいふふうになりたい…。きれいでセクシーの願望が強くなったんです」

自分の体と心のなかに、「女性」が棲んでいる。そう気づいたが、それを表に出せずに抑え込むしかなかった。

「自分は二重人格なんだ、そう思って、女性としての人格は、押し殺さなければいけないんだと、自分にいい聞かせていました」

大学に入学したが、悶々とした日々が続いた。が、やがて恋人ができた。が、ふたりの間にセックスはなかった。

「周囲はいい線いってると見てたようですが、キスくらいでそれ以上はありませんでした。彼女もセックスに執着がなかったの、別に不都合もなく交際が続きしました」

大学院で日本史を専攻し、博士課程を修了したあと、三橋さんは、その彼女と7年越しの恋を交わし結婚にこぎつけた。三橋さんが31才、妻となる彼女は27才下だった。女装を始めたのは、なんと結婚がきっかけだったという。ミニスカートのびるスラリとした脚を組んで、こう告白する。

「結婚すれば、きっちり男をやらなきゃいけないわけですから、自分の中の女性的な部分を殺さなくちゃいけないと、そう決意しました。でも、一度も目の見えない女性的人格がかわいそうになって、結婚前に一度だけ、私の中にある「順子」を表に出してみようと思ったんです」

雑誌の通販コーナーで、ワンピース、カット、化粧品を買って初めて女に变身した。最初で最後の思い出にと、記念写真を撮った。

「化粧をしながら、不思議なほどに心の安らぎを感じましたよ。それに、順子の姿が、思ってたよりイケてたので、このまま女装で生きてゆけたらとも思いました。もうこれっきりと心を鬼にして、カットや化粧品をぜんぶ捨てました」



三橋さんは内なる性を閉じこめ、仮面をかぶったまま結婚した。が、一度、自分の中から解放した女性的人格を、引っ込めるのは大変にづらいことだった。女になりたい! という思いはつづり、結婚して1年が過ぎたころ、雑誌の文通欄で知り合った友人から、プロのヘアメークが、女装をさせてくれるという店に誘われた。

「でも、行っちゃいけない、いけないと、心に鍵を掛けるしかない。心の葛藤に悩み、いちばんつらい時期でした。それから4年ほど悩んで迷って、その店について行ったのは、いまから10年前の35才のときでした」

そこで三橋さんは、女装の世界に開眼し、どっぷり浸るようになる。「でも、私は、性的に男を求める気持ちはなかったんですよ。ところが、順子は男を知らないから、色気が出ないんだ」と、女装クラブのスタッフにいわれて、それじゃとつきあうようになりました。だからずいぶん遅いロストヴァージンでした（笑）。もちろん相手は男性です」

新宿に10軒ほどある女装スナックにも通うようになった。「歌舞伎町あたりを歩いていると、面白いくらいに声がかかって、もう、断るのが面倒なくらいに…（笑）。でも、ゲイではないから、私を女性だと思って声をかけてくれた人じゃないと、つきあいませんでした」

うーん、こんなこというと、なんてふしだらなと思われるでしょうが、ずいぶん男性経験を積んで、一時はまさにプレイガールでした。でも、3年前に

講義前、手作りのテキストを抱えて教室へ向かう順子先生。

は、その男遊びもビツタリやめました」  
順子さん、いや、三橋さんはピンクのマニキュアの両手を頬にそっとあて、どこまでも女性の表情を浮かべて笑った。

## シャワーは男から女へのみそぎ

そんな三橋さんには、家庭を捨て

る気持ちはまるで

ない。7年前には、

待ち望んでいた男

の子が誕生。現在、

その長男は小学

1年生だ。

「家じゃ男性と

して、夫、父親

の立場を崩して

いません。自分

の意志で作った家庭

ですから、妻と子供

への責任は果たさな

くちやいけないと、

それは当然のことで

すよね」

気になるのは、奥

さんが夫の女装の秘

密について知ってい

るかどうなのかとい

うことだが、

「家族には、私が女

装していることは、

いっさい話してませ

ん。私が男性の体で

ありながら、女性の

心を持つてしまった

ということは、それ

は私が背負うべき荷

物であって、妻に負

担をかける荷物じゃ

ないからですよ。でも、トランス

ジェンダーの研究や活動はいろ

いろやってますからね、妻はたぶん気がついていないと思います。その上で私の好きにさせてくれるのだとしたら、とても賢い女性だし、ほんと、感謝してるんですよ」

いま、三橋さんが女装して

「順子」になるのは、年間に1

50日くらいだという。中央大

学へ講師として電車通って

るが、女装するために自宅とは

別に都内に部屋を持っている。

男から女になるまでに、三橋

さんはゆっくり2時間かける。

「まずシャワーを浴びます。こ

れは女性になるためのみそぎ、

みたいなもの。それからむだ毛

の処理をして、下着をつけて化

粧をして、服を着てウィッグつ

けて、そしてマニキュアですね」

男から女に変身するとき、胸

がときめいて興奮するものだろ

うか。三橋さんは声をあげて笑

いながらこういう。

「最初のころは、女装しながら

勃起しちゃいましたよ。でも、

いまではベニスの存在を忘れて

しまうようになりました。女装

してるっていう意識が、だんだ

ん希薄になってきたんです。普

通の女性が化粧するのと同じ感

覚ですよ」

そんな三橋さんは、美容整形

や豊胸手術をしたり、女性ホル

モンの投与をしたことがない。

「身体的な違和感はあるけど、

あくまでそれをなだめながら、

男性の体の生地のまま、女性

をどこまで表現できるかに挑戦

していきたいんですよ」

身長168センチの体形に、それにしても女性もうらやましくなるほどのバスト。

「もともと胸の肉づきがよくて、

だからその肉をぎゅっと集めて

寄せ上げブラでとめ、パッドを

すると、ハイ、一丁、できあが

りなんです。でもね、いま7

才の息子と、一緒にお風呂へは

いるんですが、このあいだ、お

父さん、どうしてオッパイ、お

おきいの、といわれたときは、

ちよつとドキッとしたとき(笑

い)」

いま、三橋さんは「社会性のある女装活動をめざす親睦団体」を主宰し、トランスジェンダーを世間的に認知してもらう活動に取り組んでいる。

「女装して教壇に立っていて思

うのは、私の講義を聴いてくれ

た学生が、やがて社会に出たと

き、世の中にはいろんな価値観

の人がいるんだ、こういう見方

もあるんだと、偏見なく人と接

するようになってほしいことで

す。だから、及ばずながら社会

にタネをまいてるんだと、そう

自負してるんです」

1時間半の講義が終わり、三

橋順子先生は、しなやかな動き

で教室をあとにした。今後、中

央大学に続く英断を下す大学が、

どんどん増えるかもしれない。

お産と産後  
安心百科

お産本番から、産後の  
ママの体の回復法、  
赤ちゃんのお世話術  
までを、わかりやすい  
ビジュアルで完全解説。

監修 米山國義

定価：本体1,600円＋税  
●B5判/288頁 ISBN4-09-103387-3

妊娠 出産  
してから するまで

安産のために  
ほんとうに役に立つ！

ビー・アンド  
Pand 版

お産と産後  
安心百科

小学館

幸せいっぱいのお産は、  
安心お産情報満載の  
この一冊でOK!

好評発売中

小学館「読者注文センター」TEL=03-3230-6739 <http://www.shogakukan.co.jp>